



議会は「言論の府」として議論を尽くすことが求められるところであり、市民の声に耳を傾け、その上で奥州市の未来に向かってどういう判断を下すべきなのか。今回の任期2年目にあたる令和5年度は、議会の存在意義を問われる一年であったと思います。この間、新奥会は議論の矢面に立って取り組んできたつもりです。また、将来を見据えて日頃の活動にも取り組まなければなりません。奥州市のまちづくりの姿を、自分たちでも考えていくための研鑽にも努めて参ります。

令和5年度 新奥会行政視察報告

令和6年1月31日◎気仙沼市・人口減少対策、移住定住支援と産学官の学び

気仙沼市の特徴的なまちづくりの体制について学んできました。

人口減少対策では未来人口会議を立ち上げ、その中には専門家・有識者、地域代表者だけではなく、女性や高校生といった様々な人たちが参加し、いろんな意見が聴取されて施策が立案されているとのことでした。

移住定住面ではお試し移住制度の導入の他、ふるさとワーキングホリデーとして、地元の産業を体験してもらうプログラムも提供しています。

奥州市の課題の一つである地域おこし協力隊については、これまで33人を任用してきており、現在でも13人の方が着任しているとのこと。前述したふるさとワーキングホリデーの体験者の中から協力隊になった人もいたとのことでした。

また、高校再編の流れを地域の課題として認識し、県に先んじて、経済界まで巻き込んだ学校教育の在り方検討会議が作られ、それがその後続く産官学連携の出発点となっているようです。加えて、学校外での探求学習をサポートするプロジェクト探求部を設置しており、地元NPOともしっかりと連携を図って参りました。

「行政が市民と距離感を詰め、同じベクトルを持ってこれまでやってきた」というお言葉がとても印象的でした。



気仙沼市議会議場にて



気仙沼市役所の担当課に取り組みを伺う

令和6年1月31日◎一般社団法人「フリースペースつなぎ」

代表理事を務める中村みちよさんが平成25年2月に不登校の子どもや引きこもりの若者が安心して過ごせる居場所として設立しました。「つなぎ」では不登校児童の学校復帰を前提にした支援ではなく、あくまで、その子自身が本来の心を取り戻し、元気になることを目的としており、子ども達の意見を聞きながら活動しているそうです。

最近では増え続ける不登校の要因にSNSやオンラインゲームがあげられるが、必ずしも悪ではない、逆にそれが無くなれば孤立し、孤立は最悪の結果を生むことになると言えます。SNSやゲームは社会と繋がっているという、その子にとってのコミュニケーションツールであり、大人がそれを理解し、次のステップを一緒に考えてあげることが大事なのだそうです。

そして何より、課題は運営費です。無償化にしたいそうですが、教育法で定められた学校と違うため、公的支援は得られず、親御さんから負担金をもらい運営せざるを得ない状況とのこと。ここについて、是非とも国の教育の制度を変えてもらい、フリースクールも義務教育の選択の一つとして、無償化を実現したいとのことでした。



つなぎ代表のみちよ氏のお話を伺う



つなぎの前で記念写真

令和6年2月1日◎気仙沼地域エネルギー開発株式会社

震災後、復興の街に再生可能エネルギーの考えの元、復興計画事業として、間伐材のガス化発電を、全くの一から始めたとの事。当市では捨てられている間伐材を地元の林業家から市場価格より高く買い取り、それをチップに加工し、乾燥させ、ガスを取り出し燃料として発電機を回し、冷却水として出て来た熱湯を温泉の補助熱として提供する地域エネルギー循環型の画期的な取り組みを行っています。

また、間伐材買い取り時に地域通貨を発行し、協賛する地域の商店に森の恵みが循環する仕組みを作りました。驚くのは、林業家をゼロから育てると言う、前向きな人づくりの考え方と、全くの未経験のガス化発電を導入し、多くの失敗をしながら、現在では24時間稼働で年間稼働率90%以上と言う、驚異の数値を出しているとのこと。簡単に、ガス化発電といいますが、国内での成功事例はあまり無く、このような事業を行っている自治体は、全国に無いとの事です。

本市では、令和2年度に黒滝温泉における木質バイオマスガス化発電を停止しています。国では2050年までにカーボンニュートラルを実現するとしており、奥州市でも新年度にGX推進室を設置しますが、着実に遂行されるよう引き続き調査にあたって参ります。



チップを乾燥させている様子



震災後からの地域エネルギー循環ができるまで

令和6年2月1日◎移住・定住支援事業と気仙沼まち大学

気仙沼市では、一般社団法人まるオフィスと言う会社に、気仙沼移住・定住支援センター湊の業務を委託しています。移住定住支援センター湊の業務内容としては、相談窓口・空き家バンク・仕事の相談・お試し移住・SNSを活用した情報発信と周知・交流会の開催等、活発な取り組みをしています。中でも、お試し移住では、空き家体験・イベント参加・漁業短期研修等滞在型のお試し移住等の多彩なお試しを提案し、市内に滞在する際には、家賃補助を行っています。

気仙沼市は、連続テレビ小説「おかえりモネ」で紹介された事もあり、全国的にも名前が知られている自治体ですが、仙台市との賃金格差が激しく、その穴を埋める作業に困惑しているように感じました。ただ、有り余る自然資源と、大島等の観光資源、コンパクトにまとまった地域性等と、内陸に住む者にとっては、魅力的な自治体である事には変わりなく、加えて震災後、気仙沼沿岸横断道や気仙沼大島大橋の開通など、交通の便が非常に良くなっています。また、市独自の気仙沼まち大学構想を進めており、さまざまなプログラムを展開し、しくじり先生と称した地域の経営者の考えや工夫等を講座の中に加えた魅力ある学びの場があり、若者の考えを取入れる活動には、市長と若者の距離感の近さを感じました。



気仙沼移住定住センターの取り組みを伺う



共同オフィススクエアショップの運営

新奥会議員活動報告

会長
小野 優
(46歳)
水沢秋葉町
教育厚生常任委員
議会運営 副委員長



教育厚生常任委員会として取りまとめた「中途失明予防から始める健康増進」に関する政策提言書を9月に提出いたしましたが、言いつ放しで終わることなく、少しでも実現可能なものを委員会の中で絞り込み、その成果の一つとして、国民健康保険の健康診断項目の中に、目に関するものを限定的ながらも盛り込んでいただくことができました。

一般質問では、6月に「町内会・自治会に対して、役員のなり手不足・高齢化対策としてのデジタル化支援について」や、「自主防災組織の現状について」取り上げましたが、元旦の能登半島地震を受けて、2月では「自主避難所に関して、平時からの取り組みについて」質し、その中で地域の運動会

行事が廃止される流れの中で、防災運動会という取組を紹介させていただきました。その他にも、「子どもの権利」や「部活動の休日移行」「カヌー競技の推進について」も取り上げられました。

また、この一年は議会における議論を問われた一年だったと思います。メイプルの取得の是非に係る議論に始まり、ひめかゆ温泉への補助や、黒滝温泉の源泉汲み上げ修繕に関しては修正動議の提出者を務めました。市民の中にも様々な考え方があり、それを汲み上げ議論を尽くすことを心がけた一年でした。

副会長
高橋 晋
(61歳)
江刺豊田町二丁目
総務常任委員
議会広聴広報 委員長
議会運営委員
市政調査会 幹事
国際リニアコライダー誘致
推進議員連盟 幹事



2期目の2年目が過ぎました。2年間、議会広聴広報委員長を務め、全国23の市・町議会からの視察に対応、議長マニフェストの実現に取り組みました。

9月議会一般質問では「やさしい日本語」の普及を全市民にを市長に質問。災害発生時に外国人へ情報を伝える、難しい日本語を簡単な言葉に言い換える、わかりやすい日本語の普及を訴えました。さらには、「江刺フロンティアパークII」を起爆剤には、住宅確保や通勤時間帯における交通渋滞解消を訴えました。

12月議会一般質問では「江刺地域の医療をどのように捉えているのか」を市長と、病院管理者に質問。県立江刺病院

が廃止されるようなことになった場合、市として奥州市東部の地域医療をどう考えるのか。産科の医師を招致するために行動をしたのかを質しました。

このほか、総務常任委員会の一員として、人口減少の問題は当市の大きな課題の一つと捉え、「移住者や定住者を増やす」ことを活動のテーマに、「移住・定住施策に関する政策提言書」を12月に提出しました。

大瀧詠一顕彰活動では、引き続き水沢江刺駅構内の「南いわて交流プラザ」で常設展示を開催。大瀧詠一さんの出身地、梁川地区の文化祭でも企画展を展開し、検証に努めました。

幹事長
及川 春樹
(54歳)
水沢羽田町字明正
産業経済常任委員
議会改革検討 委員長
市政調査会 幹事
国際リニアコライダー誘致
推進議員連盟 幹事長
奥州金ヶ崎行政事務組合議会議員



懸念されていた新小谷木橋東側交差点に信号機が予定通り設置され、ホッとしているところです。ただ新橋近くの東中通北交差点も、昨年の県内ワースト2位に入っており、引き続き注意が必要です。また、昨年報告した北上川無堤防地域では、事業実施が決まっても引き続き要望は必要ですので、市長はじめ担当課、該当地区の同僚議員と共に「北上川治水対策」「国道4号線東バイパス整備促進等」について、8月24日に国土交通省をはじめ他省庁等の中央要望をしてみました。まだ計画が示されていない場所もあり、これまでと同様に努めてまいりたいと思います。

一般質問は次の様に致しました。

○6月定例会「水沢江刺駅の周辺環境整備と利活用について」

- ① 「まちづくりにおける行政と地域の役割について」
- ② 「都市交通拠点としての役割について」「人材育成について」
- ③ 「地域産業を担う人材育成について」

○12月定例会「情報共有の在り方について」

- ① 「市民の知る権利と行政の知らせる義務について」
- ② 「デジタル化が果たす役割について」
- ③ 「民間企業との情報共有について」

また委員として産業経済常任委員会から「奥州市のものづくり産業の振興に関する政策提言」を致しました。

幹事
佐藤 正典
(57歳)
水沢真城字垣ノ内
総務常任委員
議会改革検討 委員
市政調査会 幹事
奥州金ヶ崎行政事務組合議会議員



【利益が循環するように】

気仙沼市には、間伐材を活用した、再生エネルギーの会社があります。採算が取れていて、それを元に地域通貨を出し、地域が潤い、循環型の社会を作り出す事に貢献していました。本市でも黒滝温泉のガス化発電で失敗例がありますが、同じガス化発電での成功例が身近にある事に驚きます。成功の背景にあったのは、街を良くしたいと言うしっかりとした理念でした。ガス化発電の魅力は、静かで場所を選ばない事と、広い場所を必要としないメリットがあります。副産物の熱湯も魅力的です。この循環型を奥州市に導入できないかと、取り組みを始めています。

○活動報告としては、

総務常任委員会、委員として「移住定住施策に関する政策提言書」の作成に関われた一年でした。様々な先進事例と向き合い、初めての委員会として、先輩に学びながら、想いを入れられた提言書になったと感じております。

○一般質問では、

地域おこし協力隊の増員、結婚支援、環境問題、健康寿命の延伸、投票率向上、森林資源問題を取り上げ、議論させて頂きました。今後は、これらを深掘りしながら、本市が良い方向に進んで欲しいと、現状に向き合っております。

幹事
穴戸 直美
(43歳)
水沢東上野町
建設環境常任委員
議会広聴広報 委員



2年目は引き続き、不登校支援に関して提言しました。適応指導教室「フロンティア奥州」の拡充を働きかけ「フロンティア奥州えさし」が令和6年5月に開設予定となりました。その他、学びの多様化学校（不登校特例校）の設置や、自宅や他の施設等でのAIドリルを活用した学習や、オンライン授業も出席扱いとなるよう働きかけました。現在は教育委員会と学校長、保護者の連携がとれれば出席扱いとする方針。教育委員会HPへの不登校支援に関する情報も公開されています。

また、立地適正化計画に関わるその後の再生計画について、未来を担う若者の育成と若者が持続可能な活躍が出来る社会の構築のため、エリアマネジメントの導入とともに官民

連携型の産学官による取り組みを求めました。特に、中高生による地元企業と連携した探求学習では、自分達が暮らすまち自分達で作るというきっかけにもなり、郷土愛が育まれるためまちづくりは人づくりのもと、教育大綱を策定の上、まちづくりに教育を取り入れるよう提言。その他、運転士確保とオンデマンド交通による効率的な公共交通を目指すこと、部活動の地域移行について、説明会の実施と受け皿となる団体や指導者の育成を目指すことを提言しました。

今後は、偉人のまちである奥州市独自の人材育成から生業が生まれ、中心市街地の賑わい創出に力を入れ、まちの活性化につなげたいと思います。

編集を終えて

新たな任期を迎え、2年が経過しました。倉成市政はこの2年間を種まきの期間と話され、未来羅針盤を奥州市のグランドデザインとして発表しました。我々会派は、奥州市のグランドデザインの作成を求めてきましたので、一定の理解は示しますが、拾え切れていない奥州市の魅力はまだあると思います。

メイプルの今後の活用問題、産科無き新病院建設の方向性等、課題は山積していますが、市民の皆様より良い暮らしを目指して、倉成市長の市政運営を質してまいります。市民の皆様の声をよくお聞きし、より良い奥州市の発展を目指して頑張っております。引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。



会報Vol. 1
◎私たちの地域医療の今日と明日



会報Vol. 2
◎奥州市の財政の今後



会報Vol. 3
◎雪害被害報告



会報Vol. 4
◎4年間を振り返って



会報Vol. 5
◎新たな議員を迎えて